関係各位

2023年6月吉日

公益社団法人日本エアロビック連盟

エアロビック競技の最高峰「スズキワールドカップ2023」の優勝選手が

スズキ株式会社　鈴木 俊宏社長に大会報告

2023年5月30日　スズキ株式会社本社（静岡県浜松市）にて

スポーツとしてのエアロビックを生涯・競技スポーツの両面で、普及・振興する、公益社団法人日本エアロビック連盟(所在地:東京都品川区、会長:遠藤 利明)は、2023年4月22日、23日の2日間、「スズキワールドカップ2023 第34回エアロビック世界大会」開催し、日本代表選手が9種目13個のメダルを獲得しました。この大会をはじめ、エアロビック競技に全面的なご支援をいただいているスズキ株式会社　鈴木 俊宏社長を表敬訪問し、大会結果をご報告いたしました。

鈴木 俊宏社長を囲んで優勝選手左から、岡 日菜多選手、中島心々音選手、斉藤瑞己選手、

北爪凜々選手、知崎百華選手

日本エアロビック連盟：https://www.aerobic.or.jp/

はじめてスズキ株式会社へ訪問した選手たちは、とても緊張していましたが、
鈴木 俊宏社長が温かく迎えてくださり、和やかな交流時間となりました。
まず初めに、同行した日本エアロビック連盟、知念理事長より選手の紹介、
大会の結果をご報告いたしました。
その後、大会時の演技動画を見ながら競技のご説明をいたしました。
シニア女子シングル部門で優勝した北爪選手からは「火の鳥」を演技テーマとした。
シニア男子シングル部門で優勝した斉藤選手は「高難度技を完成度高く
演技することを意識した」など、お伝えしました。

鈴木 俊宏社長

<この件についてのお問い合わせ先>

公益社団法人日本エアロビック連盟 担当：佐藤　TEL：03-5796-7521

鈴木 俊宏社長から「普通の人はとてもできないよね。何がきっかけで興味を持って競技の世界に入ったの」との質問があり、斉藤選手は「保育園のキッドビクスから」、北爪選手は「10 ヶ月の頃のベビービクスから」とご返答いたしました。
鈴木 俊宏社長は、「小さい時からリズムに合わせて踊る楽しさを大切にして愛好者を増やすことが大事だね。」とお話になり、さらに「つらくても継続できたのはなぜ」との質問に、斉藤選手は「リズムに乗って踊る楽しさを大切してきた。それが心の中心にいつもあった」、北爪選手は「周りのサポートがあってここまでこられた」、エイジ・グループ トリオで優勝の知崎選手、中島選手、岡選手からは「もっとうまくなりたいと思ったこと」「よいコーチのとの出会いがあったこと」などとご返答いたしました。
最後に鈴木 俊宏社長から「心に残る、リズムにのって踊れる、そういったエアロビック本来の楽しさを大切にして、環境作りができるとよいね」とお話しくださいました。
選手たちにとって、とても貴重な時間となり、今年開催される「スズキジャパンカップ 2023」に向けての励みとなりました。

北爪凜々選手、斉藤瑞己選手

訪問選手
シニア男子シングル優勝　斉藤瑞己選手（群馬県太田市／SKJ 所属）
シニア女子シングル優勝　北爪凜々選手（群馬県太田市／SKJ 所属）
シニアミックス・ペア優勝　　斉藤瑞己選手、北爪凜々選手ペア
エイジ・グループ トリオ優勝　知崎百華選手、中島心々音選手、岡日菜多選手（愛知県刈谷市／AE 刈谷所属）

公益社団法人日本エアロビック連盟（Japan Aerobic Federation、略称「JAF」）は、エアロビックをスポーツとして普及振興する公益法人です。全国 47 都道府県に加盟団体として都道府県エアロビック連盟があり、競技スポーツと生涯スポーツの両面から事業を展開しています。主な事業には「スズキワールドカップ世界エアロビック選手権大会」「スズキジャパンカップ全日本エアロビック選手権大会」開催のほか、生涯スポーツとして「エアロビック技能検定会」や「スローエアロビック普及」「エアロビックの学校体育の導入」等をすすめています。また、普及の要となる指導者育成として日本スポーツ協会と共催の「公認エアロビック指導者養成事業」や、各種指導員、審判員、技能検定員等の資格認定を行っています。
現在、日本スポーツ協会加盟の中央競技団体として国民体育大会の参加や、国際体操連盟（FIG）と協力してオリンピックの種目化をすすめています。
名称：　公益社団法人日本エアロビック連盟
所在地：〒140-0011　東京都品川区東大井 5 丁目 7 番 10 号　クレストワン 3F
会長：　遠藤 利明
TEL:　 03-5796-7521
HP：　 https://www.aerobic.or.jp/

<この件についてのお問い合わせ先>
公益社団法人日本エアロビック連盟 担当：佐藤　TEL：03-5796-7521